

〔資 料〕

ワールドカフェから考えた自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと

Important factors for one's life as a male nurse, which emerged World Café participation

前田 貴彦 藤本 泰博 平田 研人 辻本 雄大 上杉 佑也

【要 旨】

男性看護師は年々増加傾向にあるも、少数派である男性看護師ゆえに様々な課題や困難に直面することもある。そこで、自分らしい男性看護師人生を送るための一助になると考え、平成27年X月に男性看護師114名、女性看護師3名、男子看護学生6名を対象に、男性看護師にとっての＜自分らしい男性看護師人生とは＞とのテーマでワールドカフェを行った。そして、ワールドカフェを通して参加者が考えた、男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なことを質的帰納的に分析し、明らかにした。その結果、29のサブカテゴリーから【女性看護師とより良い関係をつくる】【男性看護師のつながりをつくる】【男性看護師の持ち味を活かしていく】【格好良く生きる】【自分に合った生活をする】【自分らしさをもつ】【精神面をコントロールする】【前に進む】【将来像を模索する】【継続を大切にすること】【看護を俯瞰的に見る】が見出された。

【キーワード】 男性看護師 人生 ワールドカフェ 自分らしさ

I. はじめに

男女雇用機会均等法の施行や改正、2002年の看護師の名称統一などに伴い、現在においては、看護師は男女共通の職業として認識され始めている¹⁾。また、厚生労働省の統計資料²⁾においても、男性看護師の就業数は、2002年の26,160人から、2012年では63,321人、2014年では73,968人と年々増加している。しかし、看護師全体に占める男性看護師の割合は6.8%（2014年）と女性看護師に比べ圧倒的に少ない状況に変わりはない。そのため、男性看護師は、付加価値の獲得による女性看護師との区別の試みや女性看護師以上の承認獲得不可による職業継続の難渋を経験していた³⁾。また、看護師を一生の仕事とする上で自己の専門性を模索し、自身の将来像が持てないなどの困難を感じることが報告されている⁴⁾。多くの男性看護師が、将来像を明確にするためにも、身近にモデルとなる同性の看護職者の存在を求めているが、実際にモデルとなる者がいる割合は少ない現状がある⁵⁾。さらに、女性看護師との仕事上の関係づくりに苦慮している者や女

性患者の羞恥心を伴うケアにおいて多くの者が拒否経験を有し、それにより無力感を感じる者もいる⁶⁾。そして、男性看護師が仕事に関する現状や困難について、相談する相手として最も多いのも男性看護師をはじめとする男性看護職者であるが⁷⁾、所属部署や施設に男性看護師がいなかったり、少数であったりと相談できない現状も生じている。これらのことから、看護師という職業を続けていく上で男性看護師ゆえに直面する不安や悩み、困難を抱えている者がいることは明らかである。

しかし、これらについて身近に相談相手がなかったり、同一施設や同一地域といった限られたコミュニティでの検討が多かったりと、施設や地域を越えて検討する場はみあたらない。

そこで、男性看護師が様々な課題や困難に直面しながらも自分らしい男性看護師人生を送るための一助になると考え、男性看護師にとっての＜自分らしい男性看護師人生とは＞とのテーマでワールドカフェを行った。ワールドカフェとは、Juanita Brown、David

Isaacsらによって考案された対話をベースとしたディスカッション方法であり、少人数でも大人数でも実施できる。その利点は、テーマに沿った対話を通して短時間で多くの意見に触れることができ、自分の思考を広げることができる⁸⁾とされており、参加者にとって有益であると考えた。

今回、ワールドカフェを通して、参加者それぞれの立場から、男性看護師にとっての『自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと』について検討したので、その結果を報告する。

Ⅱ. 目 的

男性看護師にとっての＜自分らしい男性看護師人生とは＞とのテーマで実施したワールドカフェを通して、参加者が考えた男性看護師にとっての『自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと』を明らかにする。

Ⅲ. 方 法

1. 対象者

ワールドカフェに参加した男性看護師、女性看護師、男子看護学生あわせて123名であった。

2. ワールドカフェの実施

平成27年X月、男性看護師にとっての＜自分らしい男性看護師人生とは＞とのテーマでグループワークとしてワールドカフェを120分間実施した。グループ編成は、1グループ5～6名となるよう、参加者をランダムに配置するとともに、各グループに1名のファシリテーター（全員男性看護師）を配置した。よって、男女混成のグループも存在した。そして、女性看護師と男子看護学生には、自身の立場から考える、男性看護師にとっての＜自分らしい男性看護師人生とは＞とのテーマで話し合いを進めてもらうように説明した。ワールドカフェでは、話し合われた内容を各グループで模造紙にまとめた。

1クールを20分とし、計4クール実施した。1クール終了毎に参加者は別のグループへ移動し、再度話し合いを行った。移動の際、全員がグループから離れると、今まで話し合われた内容が他の参加者に伝達・共有できなくなるため、グループに残る参加者を事前に一人決めた。1～3クール実施後、4クール目には最

初のグループの席に戻り他のグループで話し合われた内容を共有し、グループで模造紙にまとめた。まとめた内容について、司会に指名されたグループが簡潔に発表を行い、その意見を受け、参加者全体で質疑応答を行った。その後、参加者が考えた、男性看護師にとっての『自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと』を各自が簡潔にまとめ付箋に記載した。

なお、ワールドカフェでは、お菓子や飲み物を準備し、BGMを流すなど参加者が気兼ねなく会話できるような環境づくりに努めた。また、グループで書記を決めることで、その参加者は記録に集中し話し合いに十分参加できなくなるため、書記は決めず全員が話し合いながら自己の発言を模造紙に記載する方式をとった。

3. データ収集方法

ワールドカフェ終了後に参加者が考えた、『男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと』を簡潔にまとめ、その内容を記載した付箋を参加者の意思により各自で所定の回収箱に提出してもらった。

4. 分析方法

付箋に記載された内容から、『男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと』を抽出し、意味内容を確認後、コード化した。なお、キーワードや単文で記載された内容については、表現等を整えそのままコードとした。次いで、コードの類似性や共通性により分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。また、分析結果の真実性確保のため、研究メンバーを2グループに分け、各グループでコードからカテゴリーを生成し、両グループの分析結果の内容を照らし合わせた。コードの分類やカテゴリー名等の相違点については、研究メンバー全員の意見の一致が得られるまで繰り返し検討を行った。なお、研究メンバーは、臨床での看護研究や質的研究の経験者2名、大学院修士課程を修了した質的研究の経験者1名、専門看護師1名、質的研究の経験を有する研究者1名で、現役の男性看護師または経験者である。また、全員男性看護師を対象とした研究の経験者であるとともに、男性看護師を対象とした研修会やグループワークの運営経験者でもある。

IV. 倫理的配慮

対象者に対し、本調査の目的と方法、協力の自由性と協力しない場合の不利益のなさ、匿名性の保持、無記名での調査のため途中で辞退の申し出があってもその対象者が記入した付箋のみを選別することは不可能であること、結果の学会等への公表について口頭および書面にて説明し、協力の同意については同意書への署名にて確認するとともに、各自が記入した付箋の提出をもって本調査への同意と見なした。

なお、本調査は、ワールドカフェ主催団体の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

V. 結 果

1. 対象者の属性

ワールドカフェ参加者123名全員から付箋の提出があり、回収率は100%であった。回答者の内訳は、男性看護師114名、女性看護師3名、男子看護学生6名、であった。年代は19～59歳であった。臨床経験年数は、看護学生の未経験者～39年であった。対象者の所在地は、北海道から熊本にまで及ぶ全国28都道府県であった。

2. 参加者が考える男性看護師にとっての＜自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと＞

分析の結果、128コードから29のサブカテゴリーと11のカテゴリーが生成された（表1）。

文中では、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを[]、コードを「 」で示す。

1) 【女性看護師とより良い関係をつくる】では、女性看護師との関係に「波風立てない」ことが重要であり、そのためにも「男性看護師だからと思って意識して関わらない」と「男性性を意識しない」ようにし、「女性看護師の同期を大切にする」や「影響力の強い女性看護師と調整する」、「女性看護師との共存が必要」と「女性看護師と共存する」ことが重要であると考えていた。

2) 【男性看護師のつながりをつくる】では、「男性看護師の横のつながりを広げる」や「男性看護師同士の関係づくり」といった「男性看護師の仲間を作る」ことや「男性看護師同士集まる機会を作る」ことが重要であると考えていた。また、「近くの男性看護師で

集まって野望を語り合う」といった「男性看護師と語り合う」ことや「ネットワークを作ってモデルを見つけていく」という「男性看護師のネットワークを構築する」ことも重要であると考えていた。

3) 【男性看護師の持ち味を活かしていく】では、女性が多い職場で「女性のスタッフ同士の雰囲気を変えられる存在になり得る」や「男のメリットとして出産なし、結婚退職なし」と「男性看護師としての利点や特徴を活かしていく」ことが、男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要であると考えていた。

4) 【格好良く生きる】では、「格好いいメンズナース」や「格好いい自分」といった「格好良く生きる」ことや「看護師はヒーローであると思った」と「ヒーローになる」ことが重要であると考えていた。

5) 【自分に合った生活をする】では、「健康管理を意識する」といった「自分の健康を管理する」ことや「ワークライフバランスを充実させる」に加え、「楽しく生きる」といったように、仕事だけでなくプライベートの充実や自己の健康管理も重要であると考えていた。

6) 【自分らしさをもつ】では、「出来ていないことは分析する」「自己目標の設定」といった「自己分析する」ことや「自分らしさを見つける」ことが重要であると考えていた。また、参加者は、これらと合わせ自分らしい男性看護師人生を送るために、「自分の道を信じていく」「信念が大事」と「自分としての信念をもつ」や「武器をもって生きる」「男性と女性は違う。自分らしくするために武器となるものを作る」といったように「自分の武器をもつ」ことが重要であると考えていた。

7) 【精神面をコントロールする】では、苛立った際に、「6秒我慢」「6秒待つ」と「アンガーコントロールする」ことや「ストレスを溜めない」「（何事も）良い加減」といったように「ストレスをコントロールする」ことが重要であると考えていた。

8) 【前に進む】では、「チャレンジすることが大切、結果の成否は関係ない」「誰もやっていないことをやる」と、[挑戦する]ことや[キャリアアップする]ことが重要であると考えていた。

9) 【将来像を模索する】では、「キャリアアップか管理か?」「どの方向でキャリアアップしていくのか?」といったように[将来像を模索する]ことが重要であると考えていた。

10) 【継続を大切にする】では、「石の上にも三年」

「続けることが大事」と[今を継続する]ことや今それぞれ[自分のできることをする]ことが重要であると考えていた。

11) 【看護を俯瞰的に見る】では、「看護の狭い領域からだけではなく、看護を外に広げる（アピールする）」といった[看護を外に広げる]ことに加え、男性看護師自身が[看護を外から見る]ことや「看護の歴史を知る」ことも、男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要であると考えていた。

表1 参加者が考える男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (一例)
女性看護師とより良い関係をつくる	波風立てない	・波風立てず 波風たたせず
	男性性を意識しない	・男性看護師だからと思って意識して関わらない
	影響力の強い女性看護師と調整する	・影響力の強い女性看護師のコントロール
	女性看護師の同期を大切にする	・女性看護師の同期は大切に
	女性看護師と共存する	・女性看護師との共存が必要
男性看護師のつながりをつくる	男性看護師の仲間を作る	・男性看護師同士の関係づくり ・男性看護師の横のつながりを広げる
	男性看護師と語り合う	・近くの男性看護師で集まって野望を語り合う ・迷ったら男性看護師みんなで語り合う
	男性看護師同士集まる機会を作る	・メンズ（男性看護師）会をやりましょう ・メンズ（男性看護師）ならではの旅行
	男性看護師のネットワークを構築する	・男性看護師のネットワークづくり
男性看護師の持ち味を活かしていく	男性看護師としての利点や特徴を活かしていく	・女性のスタッフ同士の雰囲気を変えられる存在になり得る ・出産による長期間の休暇がない
格好良く生きる	格好良く生きる	・格好良く生きる ・格好良い自分
	ヒーローになる	・ヒーローになる
自分に合った生活をする	自分の健康を管理する	・健康管理を意識する
	楽しく生きる	・エンジョイすること ・楽しく生きましょう
	ワークライフバランスを充実させる	・ワークライフバランスを充実させる ・仕事とプライベートのバランスが大事
自分らしさをもつ	自分らしさを見つける	・自分らしいを考える ・自分らしさを見つける
	自己分析する	・出来ていないことは分析する ・自己目標の設定
	自分としての信念をもつ	・自分の道を信じていく ・自分の選んだ道へ進む
	自分の武器をもつ	・自分の武器をつくる ・武器をもつ
精神面をコントロールする	アンガーコントロールする	・アンガーコントロール
	ストレスをコントロールする	・ストレスを溜めない ・良い加減にする
前に進む	挑戦する	・チャレンジ ・誰もやっていないことをやる
	キャリアアップする	・キャリアアップ
将来像を模索する	将来像を模索する	・キャリアアップか管理か? ・どの方向でキャリアアップしていくか?
継続を大切にする	今を継続する	・続けることが大事 ・石の上にも三年
	自分のできることをする	・自分が出来るケアを実施する
看護を俯瞰的に見る	看護を外に広げる	・看護を外に広げる
	看護を外から見る	・看護を外から見る
	看護の歴史を知る	・看護の歴史を知る

VI. 考 察

男性看護師の就業領域は拡大し、一般病棟で勤務する男性看護師も増加している。それに伴い女性患者と関わる機会も多くなっている。しかし、羞恥心を伴うケアにおいては、女性患者は女性看護師を求めており⁹⁾、実際に男性看護師との理由でケアを拒否された経験を有する男性看護師は約8割である⁶⁾。その場合、男性看護師は、女性看護師にケアの交代を依頼する場合がほとんどである。男性看護師だけで看護は成り立たず、患者のニーズに即した看護を提供するためにも両者の存在が必要不可欠であることを、多くの男性看護師が実際に経験しており、「女性看護師と共存する」といった【女性看護師とより良い関係をつくる】ことの重要性を認識していると考ええる。また、現在の看護師の男女比から各部署に配属される男性看護師は、女性看護師に比べ圧倒的に少ない。今回、男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこととして、「女性看護師の同期を大切にする」や「影響力の強い女性看護師と調整する」をあげており、女性看護師と良好な関係をつくることは、円滑な業務遂行に必須であると認識していることが示唆された。そして、先行研究からも、所属科男性看護師割合が多いほど、スタッフに受け入れてもらえるよう目立つような発言や行動を控える者が少ないことが示されていた¹⁰⁾。言い換えれば、男性看護師が少数であれば受け入れられるためには目立つような発言や行動は避けるということであり、「波風を立てない」「男性性を意識しない」との意見は、まさに女性が多い中で男性看護師人生を送るための心構えと参加者が捉えているとも言える。

その一方で、参加者は【男性看護師の持ち味を活かしていく】や【男性看護師のつながりをつくる】といったように、男性看護師ということを意識した行動も重要と認識していた。また、【格好良く生きる】【自分らしさをもつ】ことも重要と認識していた。参加者のこの様な認識は、「ヒーローになる」や「男性と女性は違う。自分らしくするために武器となるものを作る」といった考えから分かるように、女性が多い環境の中で、男性看護師としての存在価値を見出したり、少数派である男性看護師の存在を周囲に意識してもらいやすくなったりするとの考えからではないかと推察する。あわせて、「男性看護師と語り合う」

や「男性看護師同士集まる機会を作る」といった【男性看護師のつながりをつくる】ことは、同性でなければ精神面での分かち合いや経験のないことを実感として分かりあうことが難しいように¹¹⁾、男性看護師が抱く思いを共有したり、困難なことに対する解決策を見出したりできる貴重な機会と考える。また、男性看護師がキャリア志向をもち、専門職者としての自立性を高めるために男性看護師同士のネットワークの構築と活用が重要であることが報告されている¹²⁾。男性看護師は、同性のモデルの必要性を感じながらも、身近にモデルとなる存在が少なく⁵⁾、将来のビジョンが見えにくいことがある。よって、今回のワールドカフェのような場で【男性看護師のつながりをつくる】ことは、専門職としての自立性を高めたり、自己のキャリアデザインを検討したりするための一助にもなると言えよう。さらに、男性看護師は、女性看護師より高いキャリア志向を示したり¹³⁾¹⁴⁾、女性看護師から「専門性の追求」や「リーダー役割」が期待されたりしている¹⁵⁾。本データには女性看護師や男子看護学生の考えも含まれているが、参加者の90%以上が男性看護師の分析結果を示したものであり、今回のワールドカフェを通し、これら男性看護師の潜在的な志向と周囲からの期待が可視化や言語化されたのではないかと考える。その結果、参加者は、男性看護師がキャリアデザインを描いたりキャリアアップを図ったり、看護を様々な視点から捉え分析する能力が必要となるリーダー的役割を担うためにも【将来像を模索する】ことや【継続を大切にする】ことはもとより、【前に進む】姿勢および【看護を俯瞰的に見る】ことの必要性や重要性をあらためて認識したり再認識したりしたと推察する。

次に、参加者が重要であると考えた、「自分の健康管理をする」「楽しく生きる」といった【自分に合った生活をする】ことや【精神面をコントロールする】ことも男女問わず、自分らしい人生を送るためには必須の要件である。特にその中でも「ワークライフバランスを充実させる」ことは、現在国を挙げて取り組む課題となっている。しかし、男として、家庭を守るために仕事をするという責任を感じている男性看護師もいる¹⁶⁾。よって、参加者は、経済的な面からも仕事優先になりがちな男性としての傾向を戒めるかのごとく【自分に合った生活をする】ことを重要と認識したの

ではないかと考える。また、多くの臨床現場で男性看護師が育児休業を希望しても実際に取得することが女性看護に比べ難しい現状にあることも、その重要性を認識させた一要因であると考え。実際、臨床現場において育児休暇を希望したり取得したりする男性看護師が増加傾向にある中、ワークライフバランスのより一層の充実への期待が伺える。

さらに、参加者には【精神面をコントロールする】ことが重要と認識されたが、これも男性看護師だけでなく女性看護師にもあてはまることである。しかし、先行研究において女性看護師と仕事上の関係づくりで苦慮した男性看護師が約4割おり⁶⁾、年代別での女性看護師との苦慮経験の違いも示唆されていた¹⁷⁾。そして、年代が低いほど女性患者からの拒否経験に無力感を感じており、女性看護師では感じる事が少ない精神的な負担を感じる事からも、参加者はこの重要性を認識したと推察する。

VII. 結 論

1. ワールドカフェを通して、男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこととして、参加者が考えたことは、【女性看護師とより良い関係をつくる】【男性看護師のつながりをつくる】【格好良く生きる】【自分に合った生活をする】【精神面をコントロールする】【自分らしさをもつ】【男性看護師の持ち味を活かしていく】【前に進む】【将来像を模索する】【継続を大切にする】【看護を俯瞰的に見る】であった。

2. 参加者が重要と認識したことは、大別すると男性看護師の男性としての側面が影響する意識や行動と性別関係なく職業人であれば重要と認識することであった。

3. 今回実践したワールドカフェは、男性看護師の専門職者としての自立性を高めることやキャリアデザインを検討する際の一助になることが示唆された。

VIII. 本研究の限界と今後の課題

今回は、ワールドカフェという実践を通して、参加者が『男性看護師にとっての自分らしい男性看護師人生を送るために重要なこと』、として考えたことを各

自が簡潔にまとめ、それをデータとして分析した。そのため、対象者の考えや思い等が十分反映したデータでない可能性は否めない。また、わずかではあるが、女性看護師と男子看護学生の意見も含まれており、本結果全てが男性看護師を背景とする結果ではない。よって、より有益かつ充実した結果を得るためにも、対象者を限定したり、面接等の手法を用いてデータ収集を行ったりしていく必要がある。

【謝 辞】

ご多用のところ、本調査に快くご協力いただきました皆様ならびに関係各位に深謝いたします。

なお、本結果の一部を第46回日本看護学会学術集会看護管理において発表した。

【文 献】

- 1) 大山祐介, 戸北正和, 小川信子: 男性看護師に対する女性患者の認知度とニーズに関する研究, 保健学研究, 19(1), 13-19, 2006.
- 2) 厚生労働省: 平成26 年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況, 2016.10.01,
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/14/dl/gaikyo.pdf>
- 3) 松田安弘, 定廣和香子, 舟島なをみ: 男性看護師の職業経験の解明, 看護教育学研究, 13(1), 9-22, 2004.
- 4) 坪之内健治, 有田広美: 男性看護師が感じる困難とそれらの困難を経験して成長する過程, 第39回日本看護学会論文集看護管理, 39, 309-311, 2009.
- 5) 辻本雄大, 前田貴彦, 古川陽介他: 男性看護師のキャリアおよびキャリア志向に関する認識と実際, 第44回日本看護学会論文集看護管理, 63-66, 2014.
- 6) 前田貴彦, 立松生陽, 辻本雄大他: 女性患者と女性看護師への関わりに対する男性看護師の実態, 三重県立看護大学紀要, 18, 37-41, 2015.
- 7) 杉野健士郎, 前田貴彦, 立松生陽他: 男性看護師の就業環境に関する認識と実際, 第44回日本看護学会論文集看護管理, 44, 79-82, 2014.
- 8) Juanita Brown, David Isaacs: The World Café Shaping Our Futures Through Conversations

That Matter, Berrett-Koehler Publishers, 2005.

- 9) 小嶋亜紀子, 筑後幸恵: 男性看護師に対する入院患者の受容, 第35回日本看護学会論文集看護管理, 35, 366-368, 2004.
- 10) 木許実花, 福田里砂, 赤澤千春: 男性看護師が抱える悩みの現状と職務キャリアとの関係(第1報) 女性多数の職場において男性看護師が抱える悩みや問題の現状について, 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要健康科学, 7, 75-80, 2012.
- 11) 畠山和人: 管理者から見た男性看護師の現状とこれから, 看護教育, 45(11), 1038-1047, 2004.
- 12) 葛原誠太, 生野繁子: 男性看護師の職業的アイデンティティの現状と影響要因, 日本看護福祉学会誌, 17(2), 65-78, 2012.
- 13) 岡山亮憲, 木下直子, 清田峰子他: 男性・女性看護師の職業アイデンティティと職務キャリアの傾向, 第46回日本看護学会看護管理学会抄録集, 130, 2015.
- 14) 中井夏子, 門間正子, 神田直樹: クリティカルケア看護領域に勤務する看護師の職業的成熟度に関する実態調査—職業キャリア成熟尺度と個人的背景, 認定看護師・専門看護師に対する関心との比較—, 日本臨床救急医学会雑誌, 16(6), 831-838, 2013.
- 15) 貝沼純, 斎藤美代: 女性看護師が男性看護師に期待する職務・役割に関する調査研究, 福島県立医科大学看護学部紀要, 10, 23-30, 2008.
- 16) 緒方昭子, 内柱明子, 土屋八千代: 新人男性看護師の経験—2年目新人看護師の語りから—, 南九州看護研究誌, 8(1), 33-39, 2010.
- 17) 上杉佑也, 前田貴彦, 辻本雄大他: 男性看護師の就業状況・環境に関する実態—男性看護師の年代別での比較—, 三重県立看護大学紀要, 19, 25-30, 2015.